

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300245		
法人名	社会福祉法人 悠々の郷		
事業所名	グループホーム 錦		
所在地	栃木県那須塩原市錦町11番6号		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果市町村受理日	令和2年4月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心して、笑顔で暮らせるよう職員も笑顔で対応し、一緒に楽しく生活出来るようなホームを目指している。開かれたホームであるようになるべく施設はせず、職員は注意を払い対応している。  
また、敷地は全面舗装されており、建物の周囲を一周できる作りになっているので、天気の良い日などは建物周辺の散歩など行う事が出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop?0](http://www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop?0)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・グループホーム錦は、JR黒磯駅西口から約1kmに位置し築6年の木造・平屋建ての事業所である。
- ・令和元年8月に運営形態を見直し、2ユニットから1ユニットになったことに伴い、入居者数が半分の9名となっている。
- ・職員同士が話し合いで決めた2つの目標「利用者さん一人ひとりに合わせた介助を行う」「職員、利用者さんともに笑顔で安心した生活のできる場所」を実現するように取り組んでいる。
- ・利用者の意思を尊重する介護として、日々の洋服は本人に選択してもらっている。
- ・食事は利用の意向に沿いながら、職員が手作りしたものを提供している。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和2年2月17日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念及び基本方針、グループホーム錦の目標に基づき、管理者と職員が共有して実践するよう努めている。	法人の基本理念・方針を基に、事業所で定めた2つの目標をユニット内に掲示し、利用者本位の介護を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	二ヶ月に一回の運営推進会議の中で情報交換を行い、自治会や地域と関わりを持てるよう取り組んでいる。	令和元年8月に、事業所が2ユニットから1ユニットに変更となる。そのため地域行事に誘われるもあるが、事業整備を優勢することで地域交流ができていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長さんや民生委員さんと意見交換を行いながら地域住民との交流が図れるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に一回開催し、ホームの状況報告や意見交換を行っており、出席者の意見をいただけるような環境づくりにも努めている。	会議は、利用者と市役所及び地域包括の担当者、自治会長、民生委員、法人の職員が出席し2か月1回開催している。事業活動報告や意見交換などを行いサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して意見交換の場を設けるとともに、生活保護受給者の相談等で福祉課の方とも協力関係を築けている。	利用料が比較的安価なことから、市の担当者と協議して生活困窮者を受け入れている。運営推進会議には、高齢福祉課職員が出席しており、事業所活動状況の助言を受けるなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止事項を理解しているとともに、施設内研修において、身体拘束をしないケアについて学びながら、それらを実践に活かしている。	身体拘束をしないケアの研修は、法人全体として年2回実施される。身体拘束廃止委員会は2か月1回開催して職員の理解と意識を高めている。	定期的な身体拘束委員会により更なる職員の質の向上に期待します。利用者への言葉による拘束を無くすための取り組みも期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通して虐待行為とは何か、虐待行為をしない、させないを徹底している。また、同時に職員の対応や関わりについても助言している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	耳にはしているが職員全員が理解し活用するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を心掛けており、疑問点を尋ねられた時にはその都度説明し、理解し納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際に職員は要望や意見を言っただけのように、信頼関係の構築に努めている。頂いた意見に対しては話し合いを行い出来る限り対応している。利用者の要望・意見に関しては日常生活の中で読み取る様努めている。	職員は家族の訪問時に、意見を聞いている。訪問が難しい高齢の家族には、電話などで意見を聞いている。利用者からは日々の暮らしの中で意見を聞いている。	家族との意見交換は管理者が中心となっているため、不在時などを想定したときに不安があります。職員全員が家族と意見交換できるような体制整備に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで意見を聞いたり個別面談で意見をもらい、反映できるよう努めている。また、法人役員と管理者および職員との個人面談も実施している。	管理者は業務やミーティングを通して、職員の意見・提案などを聞いて改善している。また、個人面談も随時実施し職員の意向把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を行い、意見交換をしながら出来るだけ働きやすい環境になる様努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の施設内研修に参加してもらうとともに、外部の研修にも出来る限り参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	連絡協議会等に参加して、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化は利用者にとってはとても大きな事。安心して頂けるように寄り添い、日常生活の中で何を欲しているか情報を得て、その要望に応じて援助出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡の際、家族の要望や困っていることを話して頂けるような関係づくりを目指し努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に利用者・家族の現状、要望などを伺い、ホームで提供できる支援を伝え、その方に合うサービスを提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要望に合わせて本人が出来る事を行ってもらい、ここが自分の居場所だと思っただけのよう支援している。出来ない場合でも、職員と一緒に行事で協力しながら生活出来る環境を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊等に制限を設けず、家族との時間を大切にし、何か問題が起きた時には家族と一緒に問題解決に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時馴染みの関係があった方が少ないのが現状。ただ、家族や友人が面会に来られた時は居心地の良い空間を提供出来るよう心がけている。	家族の支援で利用者が孫に会う機会を作っている。友人と年賀状のやり取りをしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を理解し、分かち合えるよう職員が見守っている。そして出来るだけ孤立することなく生活出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族からの相談や移動後の施設からの問い合わせに対しても対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で希望や意向を聴きとるようにしている。困難な場合は外出やレク等で個々の情報を集めて、表情や行動から判断している。また、その判断が違ふと感じたら、再検討し、対応している。	日々の生活の中で利用者と話をしながら、個々の思いを聞きながら対応している。利用者が着る洋服をその日の気分に合わせて選択できるようにしたり、お茶の時間は、本人の好みのものを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時及び入居後に家族に以前の生活ぶりについて教えていただき、サービスに活かしていけるように努めている。またこれまで慣れ親しんだ食器や家具なども持参していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や体操、日常生活を観察し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の希望や現状を把握し、職員間でのミーティングを行いモニタリングや介護計画の作成を行っている。	毎月、利用者のケース会議は行い、3か月ごとにモニタリングをしている。利用者・家族等の意向を踏まえて、編み物やパズルなどの活動を取り入れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録の記入や申し送りノートを活用し、ミーティング等で情報を共有し、その都度実施や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれたニーズに対しては、話し合いを行い、その方に合った出来る限りの対応で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や買い物、通院等で地域資源を活用し、安全で豊かな生活が出来るように、職員は常に注意をして対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じ相談・情報共有を行い受診して頂いている。また、ホームと医療機関との情報共有も行っており、希望に応じた対応が出来るように努めている。	入居前のかかりつけ医を継続受診し、送迎は家族対応としている。家族が遠方で緊急を要する場合や身寄りの無い方は、職員が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師は常駐していないが、通院時に情報の共有をしており、その際気付いたことは相談できる体制をとっている。また、問題が起きた時には、法人内の看護師に相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーや看護師とは連絡を取り合い、情報交換や相談をしている。また、出来る限り病院へ行き、状況の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	少しの変化から、家族とは報告・相談をするようにしている。家族の希望を把握し、ホームで出来る事を理解していただき、困難ケースに関しては医療機関と相談しながら対応している。	基本的に看取りは実施していないことを、入居時の家族などに説明し理解を得ている。事業所で出来ない医療行為や食事制限など対応困難なケースが発生した場合は、医療機関や利用者・家族と話し合って今後の対応を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等で学んでいるが、実践的な定期訓練は出来ない。日常生活の中で起こる急変時や事故発生時の対応についてはマニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しており、避難場所や避難方法などを確認している。また自治会長と連携を図り、協力体制を築けるよう努めている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防署立会いで実施している。食糧備蓄は2～3日分用意してある。自家発電機を所有し有事の際に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修やミーティング等で人権の尊重、言葉遣いや対応について指導している。プライバシーを尊重し、さりげない声掛けが行えるよう努めている。	人権に関する法人研修が開催されている。出席した職員が事業所内ミーティングなどで伝達している。利用者への声掛けは、状況によって本人に通じる「～ちゃん」と言って親しみをもって対応することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ある程度の方向性は決めるが、その中で希望や決定は本人にして頂き、決められない時は表情を見ながら判断するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で本人がどの様に暮らしたいのかを観察しながら見つけ、利用者が希望を伝えやすい環境を作れるよう努めている。また、利用者の行動に関しては危険のない限り制限しないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合わせた整髪や散髪が出来るように対応している。また、本人と家族の希望を把握し、買い物の際は本人を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り利用者の要望を取り入れ献立を作っている。また季節に応じた食事が提供できるよう努めている。食事の準備や食器の下膳、片付けも出来る限り一緒に行っている。	利用者の要望に合わせて、手作りの食事を提供している。味付けも利用者聞きながら作っている。職員も利用者と一緒に食事をとり、準備や片付けもできる方には手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一緒に食事をする事により、一人ひとりの摂取量や食べ方が把握でき、変化があった時には生活記録等に記載し職員全員が情報を共有できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に応じて歯磨きや入れ歯洗浄などの口腔ケアを行っている。その際には出来る限り残存機能を生かした支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人にストレスが無いようにその方に合った対応をすともその方の排泄パターンに合わせて排泄の促し等もしている。	排泄チェック表により利用者のパターンを把握し、プライバシーや言葉使いに配慮しながら誘導している。数名の利用者には夜間ポータブルトイレを設置して、歩行の負担を軽減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況や排泄パターンを把握し、体操や散歩などを取り入れたり、乳製品や適度な水分補給を行う事により、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望にすべて合わせる事は難しいが、出来る限り訴えに対応できるよう心掛けている。	入浴は、週2～3回行っている。職員は利用者に話しかけながら、リラックスした雰囲気に入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の整頓、室温や明るさにも配慮して、休息したり安眠できる環境づくりを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬の内容を把握し、変化がある時は家族と病院に状況報告を行い、情報を共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった気分転換を行っている。また、みんなで楽しい時間を共有できるようにレクや季節に合った行事なども工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来限りその時の希望に対応しているが、無理な時は後日対応している。家族の協力もあり、外泊や旅行に出かけられている。また、訴えの無い方も定期的に外に出て、気分転換できるよう支援している。	事業所の敬老会では、利用者全員がレンタカーで那須方面にドライブ・外食に出かけている。天気の良い日には、事業所敷地内を散歩して気分転換を図っている。敷地内の畑で芋など育て、戸外に出る機会を作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と相談して管理の方法を決めており、金銭管理の困難な方は管理させていただいている。また、買い物の際の支払いについても支援しながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別な理由がない限り、電話と手紙のやり取りは自由に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、利用者様の作品や四季折々の物を飾るとともに、不快とならないよう工夫しながら空間作りを行っている。	利用者が日中過ごすホールは、アイランド方式キッチンと置コーナーがあり、職員とコミュニケーションを取りながら楽しく過ごせる空間である。天窓から自然光が入り、明るい造りである。外来者と利用者のための応接コーナーがあり、落ち着いて話すことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースでは、同テーブルの方とお話されたり、個人の居室にて気の合う方と楽しい時間を過ごされている。一人になるようなときは職員が対応し、孤立する事が無いような環境作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものを持ってきていただいて、なるべく馴染みの物が目に触れるような環境を作っている。	居室はベッドとロッカー、洗面台、エアコン、空気清浄機が設置されている。思い出の写真やぬいぐるみ、使い慣れた桐箆笥や遺影・位牌なども持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に表札を付けたり、目印になるような飾りを付けたりするなど工夫している。理解困難な方には声掛け誘導し、残存機能をいかに活かすように対応している。		